

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊中市立新田小学校  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )  
所在地 〒560-0085  
大阪府豊中市上新田 2 - 19 - 1  
E-mail t\_shindensho@city.toyonaka.osaka.jp  
Website http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/sinden/  
児童生徒数 男子 403 名 女子 337 名 合計 740 名  
児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 12 歳

## 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☒ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

## 3. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

## 4. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

当校は、「ESD で生きる力を主体的に学び取る子ども」を学校教育目標に置き、ESD を教育課程の礎に、ESD の実践を通してグローバル人材の基礎となる力の育成を目標とした。

具体的には、ユネスコ新田版学習の 4 本柱、① 知ることを学ぶ、② なすことを学ぶ、③ 共に生きることを学ぶ、④ 人として生きることを学ぶ、に係わる学習を行った。

### ① 知ることを学ぶ⇒学び方を子どもに習得させる

教育課程の工夫と改善を図ることが必要であるという認識に立ち、授業改善を図った。特に、ESD 学習指導案のあり方について学識経験者を招き年間 6 回校内研究会を開催した。指導案の形式を定め、1 年生から 6 年生まで各学年 1 回ずつ公開授業を行い、研究を深めた。

② なすことを学ぶ⇒企画力を育み、自分で考え行動する力を育成

③ 共に生きることを学ぶ⇒協働学習を通して、コミュニケーション力・共生する力を育成。

児童会活動の一環にフレンドシップスクール間での協働学習を展開した。

毎週水曜日の20分休憩を交流時間とし、ニュージーランドハンマースプリングススクール(13:25)、モンゴルウランバートル18番校(9:25)、本校(10:25)にウェブTV会議システムを活用し、交流を深めた。

交流による協働学習の内容

- ・地球的課題の共有
  - ・3校ロゴマークを作成
  - ・ロゴマークに込める願い「キャッチコピー」を作成
- 3校で計画、立案、各校の児童に広げ意見調整のうえ実践  
最終、フレンドシップ旗を製作

④ 人として生きることを学ぶ⇒振り返り活動を大切に学び続ける力の育成

学びの連続性を重視。1単位時間の学習ももとより、単元ごとの振り返り活動をおこなうことで学びの連続性を大切にしたい。

特に、児童が自らの成長を認知できることは学びに大きく影響すると考えられることから、今後の研究課題に設定している。

## ① ④の写真



▶ 7・3の授業を振り返って

全員参加の授業

シンキングツールの利活用

態度表明  
見える化

▶ 学習指導要領とESD

H28.12.21 中教審

予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる

各教科等  
カテゴリ

違い

持続可能な社会の担い手を育成するための教育

2002 国連総会

「ごみのしまつと活用」を学ぶ→から学ぶ

▶ カテゴリー

文科省	国研	新田小
8	15	14
ESDの基本的な考え (知識、価値観、行動等) 環境、経済、社会の 統合的な発展	教育的に価値ある諸課題 現代社会の課題	
エネルギー	環境 国際理解 防災 伝統文化・遺産	
気候変動 生物多様性	地域・ふるさと 福祉 教育、キャリア教育	食育(健康) 情報教
科学技術 ものづくり 地域経済 生命 勤労	平和 人権 心の教育	
その他関連する学習		その他

▶ 7/3 学習指導案

- ① 教科等の位置づけ
- ② 単元について

ESDの視点を具体化

- ・教材観⇄現代社会の課題  
構成概念
- ・児童観⇄児童の反応分析
- ・指導観⇄能力・態度

▶ 社会科とESD

ESDからの発想

教科指導の充実

▶ 教材の教材化ステップ④

授業展開をデザインする

## ② ③の写真



## (2) 活動の詳細

### ①活動内容

- ・校内研修会 学習指導要領と ESD について  
カリキュラム編成の実際
  - ・ESD 授業づくり  
ESD 学習指導案の研究開発
  - ・各学年における公開授業と研究
- 主として上記 3 点の研究活動を行った。

## 第1学年 ESD生活科指導案

豊中市立新田小学校

### 1. 単元名

「じぶんで できるよ」

### 2. 単元の目標

家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや、家の人のよさ、自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

### 3. 授業仮説

「じぶんで できるよ」の指導では、ESDのカテゴリー「キャリア教育」に視点をあて授業を展開することによって、生活科のねらいである「気づきの質を高める」ことができる考える。さらに、自分の役割を果たして活動するフィールドを家庭、学校、地域・・・と広げていくことで社会的・職業的に自立したグローバルな人材の基礎を育むことにつながるであろう。

### 4. 単元について

本学年の児童は、1学期には、学校探検や学校生活を支える人々の学習において、上級生や学校で働いている人たちと積極的に関わり、理解を深めてきた。また、アサガオの栽培活動では、継続して世話をすることができるようになった。学級生活においても「黒板を消したい。」「ノート配りをしたい。」など、学級の仕事を進んで見つけたり、給食当番、日直など、意欲的に活動に取り組む姿が多く見られるようになってきた。

しかし、家庭においては、学習用具の準備や身の回りの整理など、家の人に手伝ってもらうことも多く、家の仕事を進んでやっている子どもは少ない。また、学校では、給食当番では後片付けを忘れてしまうことや、日直では声をかけられてから取り組むことなど自分の役割としてとらえられていない。

本単元は、学習指導要領の内容（２）「家庭と生活」の内容「家庭生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする」を受けて設定したものである。自分の家族を見つめ、家族の支え合いによって毎日の自分の生活が成り立っていることを知り、家族のために何ができるかを見つけ、それを実際の生活の中で実践させる。そのことを通して、家族の一員としての自分の存在を意識し、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活をするという自立への基礎を養うことをねらいとしている。

小単元１では、児童は自分の一日の生活を調べる活動を通して、ふだん当たり前のように過ごしている家庭生活や家族への関心を持ち、規則正しく健康な生活をする大切さに気付かせたい。

小単元２では、家の人が行っていることや家の人にしてもらっていることを調べ、その中で自分ができそうだと思うことを選び取り組む。そして、実際に自分が取り組んだことを発表し合い、さらにできることを考え、一週間程度取り組む。家庭で取り組んだことを発表し合う中で、これからも続けたり、挑戦したりしようという意欲を高める。また、実践してよかったことを振り返る中で、家庭の温かさや家の人のよさ、自分のよさや役割にも気付かせたい。

小単元３では、家庭や学校で自分が続けたいこと、挑戦したいことを考え、一週間程度取り組む。実践したことをグループで発表し合う。そのことにより、さらに視野を広げたり、自分でできることや、家庭生活における役割が増えた自分や友達の成長、よさに気付かせる。また、家族の一員として継続的に自分の役割を果たしたり、健康に気を付けて生活しようとする意欲を育てたい。

児童の気付きの質を高める工夫としては、繰り返し活動を行うことや、体験したことや家庭からのコメントを書き込めるワークシートの工夫、実演を交えるなど伝え合う場の工夫などを行う。

## 5. 本単元におけるESDの視点

構成概念	<input type="checkbox"/> I	多様性(いろいろある)	<input type="checkbox"/> II	相互性(関わりあっている)
	<input type="checkbox"/> III	有限性(限りがある)	<input type="checkbox"/> IV	連携性(力を合わせて)
	<input type="checkbox"/> V	公平性(一人ひとり大切に)	<input checked="" type="checkbox"/> VI	責任性(責任を持って)
カテゴリー	<input type="checkbox"/> A	エネルギー	<input type="checkbox"/> B	環境
	<input type="checkbox"/> C	国際理解	<input type="checkbox"/> D	防災
	<input type="checkbox"/> E	平和	<input type="checkbox"/> F	人権
	<input type="checkbox"/> G	伝統文化・遺産	<input type="checkbox"/> H	地域・ふるさと
	<input type="checkbox"/> I	福祉	<input type="checkbox"/> J	食育
	<input type="checkbox"/> K	心の教育	<input type="checkbox"/> L	情報教育
	<input checked="" type="checkbox"/> M	キャリア教育	<input type="checkbox"/>	その他(ものづくり)
能力・態度	<input type="checkbox"/> ①	批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> ②	他者と協力
	<input type="checkbox"/> ③	自然とのつながりを尊重する態度	<input checked="" type="checkbox"/> ④	コミュニケーション力
	<input type="checkbox"/> ⑤	他者の立場と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥	進んで参加する態度

### (1) 本単元における持続可能な社会づくりの構成概念

#### VI 責任性

○家族のことや家庭生活における自分のこと、自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うことができるようにする。

○家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする態度を育てる。

### (2) 本単元におけるESDのカテゴリー

#### M キャリア教育

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」に定義されている。キャリア教育はキャリア形成に必要な能力や態度を育てることを目指すものである。本単元のねらいとする「自分のことは自分で行うこと」や「自分でできることや自分の役割を積極的に果たそうとする態度」は、キャリア形成における社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度でもある。したがって本カテゴリーに分類した。

### (3) 本単元におけるESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

	<b>②他者と協力</b> 他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同して、ものごとを進めようとする態度。(※)	<b>④ コミュニケーション力</b> 自分の気持ちや考えを伝えとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。(※)	<b>⑥進んで参加する態度</b> 集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。(※)
本単元における具体的な児童の能力・態度	・家の人が行っていることや家の人にしてもらっていることに興味をもつ。 ・家庭の家族の一員として、自分の役割に気付いている。	・自分の取り組んだ仕事や取り組みの感想、家族からの感想などを友達と伝え合っている。	・家庭や学校で自分ができることを考え、計画し、取り組んでいる。 ・学習後も継続して取り組んでいる。



(※)…国立教育政策研究所「E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より引用

(4) 本単元におけるE S Dの視点における系統性

生活科 1年 「じぶんで できるよ」

2年 「あしたへ ジャンプ」

家庭科 5年 「わが家に ズームイン！」

6年 「私の仕事と生活時間」

6年 「あなたは家庭や地域の宝物」

特別活動 全学年

係活動、当番活動、児童会活動、勤労生産・奉仕的行事 など

学級活動 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解

道徳 全学年 A 主として自分自身に関すること 「節度、節制」

例 1、2年 (3) 健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、  
わがままをしないで規則正しい生活をする。

「希望と勇気、努力と強い意志」

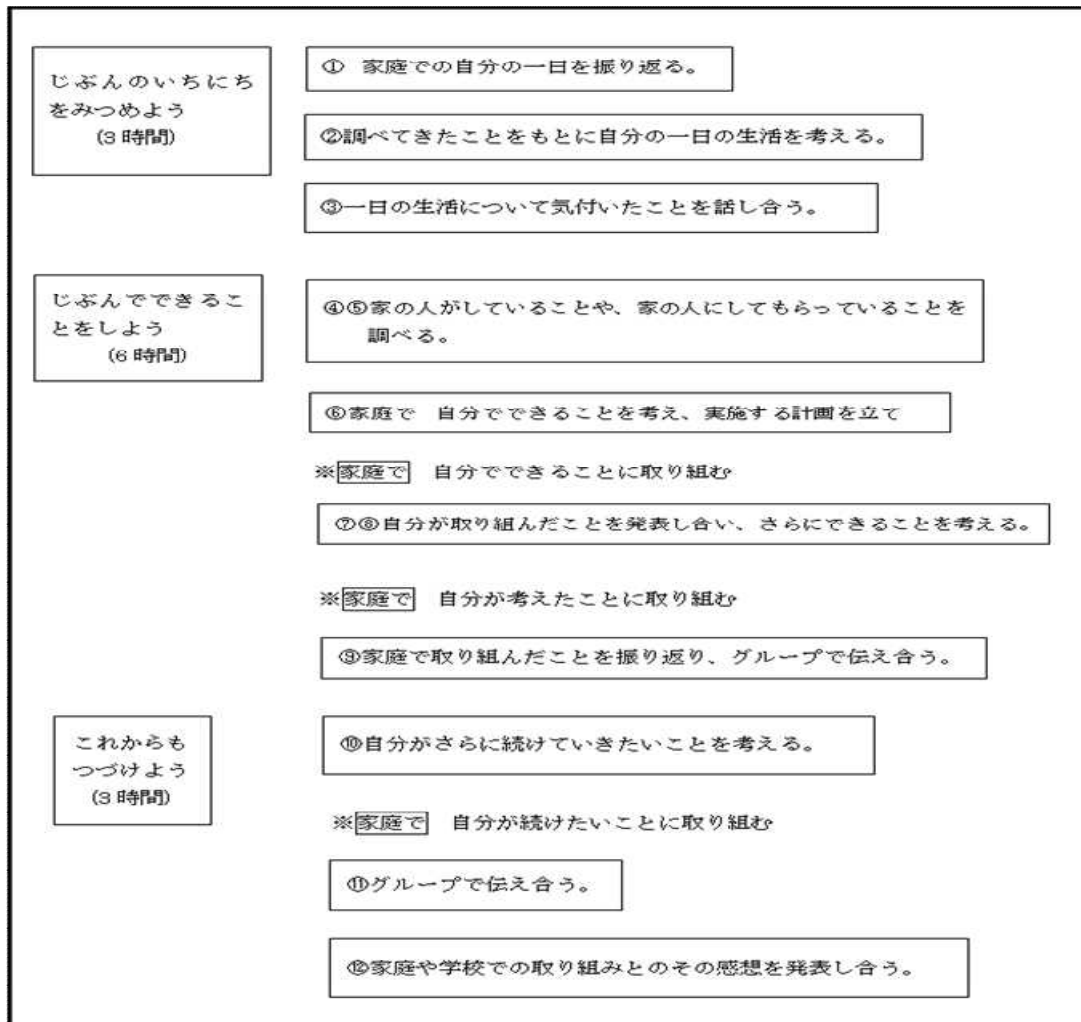
例 1、2年 (5) 自分がやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。

C 主として集団や社会とのかかわりに関すること

「勤労、公共の精神」

例 1、2年 (12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。

6. 単元構成 (全 12 時間)



関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
家庭生活を支えている家の人のことや、自分でできることなどに関心をもち、家庭生活における自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとしている。	家庭生活やそれを支えている家の人のこと、自分でできることなどについて、自分なりに考えたことや、振り返ったことを友達と伝え合っている。	規則正しく、健康に生活することの大切さや、家庭生活を支えている家の人のが分かるとともに、自分でできることや、自分の役割に気付いている。

## 7. 評価規準

## 8. 授業を終えて

本単元では、ESDの視点に立ち、学習指導で重視する能力・態度として、「②他者との協力」、「④コミュニケーション能力」、「⑥進んで参加する態度」の3つに重点を置き進めてきた。今回は、ESDの視点から、様々な手立てを考え実践した結果を考察してみる。

### 【②他者との協力】

家の人をしていることを調べる活動や、自分でできることをしてみる活動を通して、どの児童も、家の人がしていることや家の人にしてもらっていることに関心をもつことは、十分にできたと思われる。また、「おかあさんは大へんだとおもいました。」「いつもやっているのは、すごいいとおもいます。」「わたしがもっと手つだってあげたいです。」「じぶんでできることをしたいです。」などの発言に見られるように、家族の仕事に目を向け、お母さんの大変さに気づき、自分にできることはないかと考えていた。家庭、家族の一員として、自分の役割に気付いている姿と言える。今後は、児童の変容を細かに見取る手だてを工夫していく必要がある。

### 【④コミュニケーション力】

「じぶんでできること」を実践した後、感想等を伝え合う場面では、児童は自分のことばで取り組んだことを振り返りながら表現していた。気づきの質を高めるために、家の人に教えたもらった上手になるためのこつや工夫して取り組んだ点に絞って児童に問いかけた場面では、「おさが大きくて おもくて もてないから、あらうところの下において あらうといい。」と自信を持って自分の取組を詳しく伝えようとする姿や、「こうやって道具の持ち方をかえてみると、そうじしやすいかな」「ぼくがおしえてもらったズボンのたたみかたは、ま四かくになるたたみかたで、しまいやすいです。」など、友だちにアドバイスしようと発言したり、実際にその動作をやって見せながら発表したり、が見られた。経験したことによって気づきの質の高まり、それが発問によって引き出され、活発に考えを交流していた。

児童が自ずと表現したくなる場や子ども同士がかかわりながら発言する場の設定を工夫することは、コミュニケーション力の育成のために有効であった。

### 【⑥進んで参加する態度】

この単元は、保護者が一緒に取り組み、適切なアドバイスをしたり、励ましや賞賛のコメントを書いたりするなどの家庭の協力が欠かせない。「おかあさんにほめてもらって、うれしかったです。」と何人かの児童が発言したように、保護者のコメントが児童の頑張りを認め、次の活動への意欲を高めている。学年便りや学級だより、懇談会などでの保護者への協力依頼が有効である。

家庭での実践活動を2回設定した。1回目の実践の後には、「やってみたらたのしかった。」「むずかしかったけど、できるようになった。」という児童も、その後の学級での感想交流会で、友だちの感想を聞き、自分との相違点に気づき、「またやってみたい。」「もっとほかにもやってみたい」等の感想を持ち2回目の活動への意欲を高めていた。そして2回目は継続して取り組むだ

けでなく、友だちのやっていたことを自分もしたり、新たに自分でできることを見つけたりしてさらに意欲的に取り組んだ。2 回目は仕事にも慣れて楽しく活動でき、進んでするとほめてもらえることもあり、さらに意欲的に取り組んでいたように思われる。活動を 2 回設定したことは、児童の気づきの質を高めるだけでなく、参加への意欲も高まり、とても有効であった。

学習後も、ふろそうじやせんたくものたたみが続けていたり、3 学期のめあてを決めるときに、「じぶんからすすんでする」という、めあてを掲げる児童もいたりするなど、関心や意欲が継続している児童も見られたが、一部の児童に限られていた。自分でできることを家庭だけでなく、学校、地域、社会へと広げていく子どもに育てるためにも、「自分のことをすすんでしているか」の簡単なチェックシートを作成し、1 か月に 1 回程度振り返ってみる等の工夫が必要であった。

## 9. おわりに

本単元を ESD の視点で見ると、キャリア教育のカテゴリーに分類され、育てたい力は「②他者との協力」「④コミュニケーション力」「⑥進んで参加する態度」に絞ることができた。2 行で表現できることであるが、その意味を理解し、このように表現できるまでに何度も話し合いをしてきた。

今回 1 年部に与えられた課題は、指導案の形式を考えることであった。本単元は、ESD の視点でみても内容が一致しているため、指導案作成や指導に混乱はなかった。しかし、他の単元、教科においては、難しい部分も出てくるかもしれない。

生活科はもちろん、他の教科・領域でも系統性を考えて指導するが、ESD の視点での系統性を考えたことは、他の教科・領域に大きく関連・発展していくという点で新鮮に感じた。「今指導していることが、何につながっているのか、今後どう発展するのか」を考えながら指導することは、ESD の視点で指導していく上で大切なことであると感じた。

### ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	■ 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
■ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他( )		

### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	



## エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ ESDの更なる推進に向けて ユネスコ国内委員会
- ・ 宮城教育大学（2014） ESDの効果と成果に関する質問紙調査より
- ・ 関西大学 黒上晴夫教授 パフォーマンス評価としてのルーブリック
- ・ WEB統計学事典より
- ・ 学習指導要領
- ・ 国立教育政策研究所 学校における教科横断的な ESDの学びより
- ・ 家電リサイクル法
- ・ 環境省「環境統計集」
- ・ 2002 国連総会
- ・ フードマイレージ

### ①ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

学校教育目標を具現化するため、つけたい力を、新田版4つの学び「知ることを学ぶ⇒学び方を身につける」「なすことを学ぶ⇒企画力、自分で考え行動する力」「共に生きることを学ぶ⇒コミュニケーション力・共生する力」「人として生きることを学ぶ⇒学び続ける力」で捉えなおし、日々の教科指導等で実践するための学習指導案の形式を考案した。次年度以降さらにつけたい力の分析の研究を深めていく。

### ② 学校全体で組織的

今年度は、研究推進委員会を ESD の研究母体に位置づけ、各学年、研究部会、指導部会から ESD 担当で研究に当たった。

次年度は、学校教育目標を具現化するため、研究テーマを「ESD でつけたい力」を分析し、より系統性のある教育課程の編成を試みることでなっている。そのための組織改編をおこない、校務分掌の名称も校内 ESD 推進機構図とした。

### ③ 継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

教科学習、特別活動、学校行事において、「人のつながり」「教材のつながり」「世界とのつながり」を大切に、ESD で子どもにつけたい力を明確にし、教材開発、指導方法の工夫改善、児童会行事、学校行事のつながりを見直し、地域、保護者等連携のもと、「新田フェスタ」の開催を年間のまとめとして位置付けた。

あわせて、振り返り活動を充実し、取組検証を行い成果と課題を明らかにすることで次年度の研究につなげていく予定である。

#### （ア）ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

本校の ESD を基軸にした教育活動の成果と課題について、年3回学校評議員会並びに学識経験者を招き、効果検証を行うとともに、次年度に向けた研究の方向性について指導助言を受ける予定である。

#### （イ）ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

取組み状況及び成果、課題について学校だより、市内 ASP ネットワーク連絡会で情報発信を行った。また、市議会でも取り上げられるなど、活動から得られる効果、子どもの変容について共有でき、ESD 教育活動への理解が得られたと考えている。

- (ウ) 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

伝統文化地域人材バンク  
大阪府放送・視聴覚教育研究会  
豊中市ASPネットワーク連絡会

- (エ) 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

ユネスコスクールではないものの、ニュージーランド・モンゴルの2つの学校とフレンドシップスクール提携し週に1回、ウェブTV会議システムを活用したESD協働学習を行っている。

- (オ) ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でポジティブな変化）

- ・学校教育自己診断において、本校のESD教育活動に対し8割の保護者の理解が得られていることがわかった。
- ・ESDで捉えた学校経営に対し、地域、保護者の理解と協力が得られ活動に広がりを持てるようになった。
- ・今年度の研究を基盤に次年度はさらに教材開発、授業改善等にむけての研究を深めていく。

- (3) 平成30年度の活動計画

ユネスコの4つの学びを新田版学びの4本柱として捉えた教育活動の展開  
つきたい力

- ① 知ることを学ぶ⇒教育課程の工夫・改善 研究テーマ [ESDめがねで教材開発]
- ② なすことを学ぶ⇒企画力 自分で考え行動 研究テーマ [プレゼンテーション力]
- ③ 共に生きる・他者と生きることを学ぶ⇒コミュニケーション力・共生力  
研究テーマ [他者と協働する態度]
- ④ 人として生きることを学ぶ⇒学び続ける力 研究テーマ [振り返り活動の充実]